

個人の力を生かすネットワーク

藤原一絵

(9-1, ボリビア, 音楽教師,)

こんにちは、はじめまして。京都市の方から参りました、藤原一絵と申します。9年度1次隊で現職参加させて頂いて、南米のボリビアに2年間行ってまいりました。現地では音楽教師として、また指導主事として子どもたちに音楽を教えたり、現場の先生たちに音楽教育をしたりして過ごしていました。今回は京都市のほうで今年度発足しました研究会についてのお話をメインにさせていただきたいと思います。

私のテーマですが、「現職参加した教員の還元方法について」ということについてです。還元方法といいましても、帰ってきてから還元するという方法と、任国にいる間に還元する方法とがあると思います。あちらにいる間にも、現地にいる子どもたちと日本にいる子どもたちとをつなぐ交流というのを出来るかと思います。私がしていましたのは、例えば勤務校にいる子どもたちが総合的な学習の時間に書いたお手紙や、図工の時間に描いた絵画などを現地の方に送ってもらって、また、こちらの方から送り返したりして、交流をしていたり、音楽教師をしていたもので、やはり途上国ということで楽器の数が足りなかったもので、日本で余っているもの、お古のものなんかを学校で募集して送って頂いて、使わせてもらっていました。

還元といえるかどうか分からないのですが、日本との繋がりということで、日系人が多い町でありましたので、他のボランティアや現地の日系人と協力して、日系人会館、日本人会館で歌を教えたり、お茶を教えたり、日本料理を教えたりしていました。ちょうど紀宮さまがおいでになった100周年がありましたので、町で日本祭りなんかもしました。それから、帰国後日本の子どもたちに返してあげられるものとしまして、現地の文化などを自分が身につけて帰りたいなという思いがありまして、現地の音楽家の先生にボリビア音楽をギターで習ったり料理を習ったりしていました。それから、たぶん先生をやられている方みなさんも外国から日本に帰った後、子供たちにどんなふうに教材にして返せるかなってことで、写真を撮りながらつい考えたりしていると思うんですけども、作物とか文化とか子供たちが踊っている写真とか環境問題に使えるようなこと、それから日本にはない問題なんかもありますので、そういうものを写真に撮ったり資料を集めたりしていました。それから、日本に向けての発信ということで、日本との違いとか向こうの学校の様子、生活の様子なんかをお便りにして日本の知人や日本の先生たちに送付していました。それから、任国ボリビアで他の隊員が勤務していました養護学校、日本でいう総合支援学校の方で、子供たちが描いた絵や手作りのクリスマスカードを作ってくれていましたので、それを私の教え子、日本の子供たちに年賀状代わりに送るということもしていました。

これがボリビアで日本とのつながりということでやってきたことです。次は帰国後どのように子供たちに返せるかということですが、自分のやったことだけなんですけど、例えば資料作成、私の場合はボリビアから来た少年という文章を書きまして友達に絵を描いてもらって、紙芝居みたいなものにして道徳資料を作ったり、フォトランゲージはよくありますけども、先ほどのページでお話したように、撮ってきた写真をまとめて、お野菜を育てるとき世界のお野菜はどんなものなのかなって話をしたり、環境について考えさせられるような一枚を提示してどんな問題があるのかなっていうことを考えさせたり、日本との違いを考えさせたり、ある一人の少年をずっと追いかけて撮った写真がありましたので、ボリビアの子供たちの一日と日本の子供たちの一日のどこが違うんだろということを考えさせたりしていました。それから、文化の伝達ということでは、一・二年生だったら生活科、三年生から上だったら学活や総合的な学習の時間の中でやられていると思うんですけども、持って帰ってきたおもちゃで遊んでみたり、持って帰ってきた楽器で演奏してみたり、それから、ボリビアの文化についてこちらの方で話をしたりということもできますし、高学年では特に総合的な学習の時間で話をすることもありますし、社会科の教科書に青年海外協力隊の話が出てきますので、担任の先生からちょっと話を聞かせてくれと言われると話をしに行ったりインタビューを受けたりもしていました。それから、今ここには載っていないんですけども、帰ってきてから知り合いの画家の方がやっておられる児童画交流展みたいなものもやっていまして、日本の絵を外国の方に送ったりもしました。

ここまでは内容なんですけども、じゃ、どういった場で還元していくのかっていうことを今年研究会を立ち上げたということもあって色々考える機会がありましたので、お話しします。普通は在籍校に帰ってきて、その学級の中で学活の時間、道徳の時間、社会科、総合的な学習の時間などにカリキュラムを自分で考えて、一時間単位で行うということがあります。それから、私はやっぱり向こうに行ってから日本の文化を知りたいなって思ったので、帰国後和文化クラブを担当してみたりとか、今年は地球っ子クラブっていうものを発足させて、そちらの方で開発教育、体験学習型の学習をしたり、子供たちが調べ学習をして発表したり外国の遊びをしてみたりという活動をしています。それから、これは大人の方に向けてなんですけども、家庭教育学級なんかでお話させていただく機会なんかもありまして、そうすると地域の方とか保護者の方にもお話を聞いていただくことができました。それから、他の学校の方からもちょっと、来て話をしてくれないかと声を掛けていただけたら、出かけて話をしたりもしました。

ここからが、本題というか、京都市の取り組みです。ここまでのお話は一個人の話で、帰国後普通は帰ってきて子供たちに返してあげたいと思っても、例えば道徳資料を作っても自分が作ったものは前の勤務校にそのまま埋もれてしまうとか残ってしまったり、道徳、音楽科などで文化伝達をしても自分のクラスの中で、子供たちはすごく喜ぶけれども、その場で終わってしまったりというのはやはり多かったです。で、京都市には、帰ってきた教員 OV 同士のネットワークというものがあるんですけど、今まであまりなかったもので、知りあう機

会がありませんでした。私も昨年度、林先生に声を掛けていただいて、色んな教員と知り合うことができ、その差を本当に実感してるんですけども、ネットワークがないと、やっても自分のクラスだけ、学校全体に広めることもなかなか難しいという現状があると思います。昨年度準備期間として林先生中心に教員 OV を集めていただきまして、現職参加したものだけではなくて協力隊をして帰ってきた人が一次試験を免除されるという国際貢献枠で受験されて先生になられた方が今どんどん毎年入ってこられて京都市におられますので、その方たちが一番多いんですけども、多くの教員 OV が集まりました。まだ研究会をするってことは決まっていなかったんですけども、何をするか、どうしたいか、またどういう方法で子供たちに伝えていったらいいか、どういう活動ができるのかを少しずつ話し合っていました。そんな中、自分たちだけではなくて、京都市の OV ではない他の先生たちも巻き込んでやっていったほうがいいだろうという話がありまして、今年度から発足しましたのがこのグローバルキッズ研究会です。以前からありました国際教育研究会の方と一緒にになりまして、新しく名前が変わってグローバルキッズ研究会として発足しました。今のところ会員が京都市全体で 87 名、そのうち OV が 19 名となっています。で、職種も、普通研究会と言いますと小学校だけであることが多いんですけども、小学校の方が一番多くて 78 名、中学校が今現在 2 名、高校 2 名、この方たちは OV の方です。それから、総合支援学校の方が 3 名。その他というのは委員会の方とカウンセラーの、不登校のこどもたちの相談センターで働いておられる方が 1 名おります。

今年度の活動内容なんですけども、まず今年度 3 回 OV による開発教育実践講座というのをしました。これは京都市の研修センターがありますが、こちらのセンターの方でまずネパールの帰国隊員の方で、「世界がもし 100 人の村だったら」という本を題材に参加型の学習という形態を広めるためにやってくれました。最初にアイスブレイキングをしてそれから、みんなで考えてグループで話し合っという参加型の学習をしてくれました。それから次にネパールの隊員、高校に勤めている方なんですけど、「マハラバの町では」という、これは自作の教材です。この先生は帰ってきてから自分でどうやったら子供たちに伝えられるだろうかということを考えて数多くの教材を開発しておられる方で、その中の国旗の意味を考えるとという内容の授業をしていただきました。三回目はセネガルの「ファールさんの気持ち」ということで、これはご存知の方もおられるかもしれませんが、途上国に行ったら、障害のある方が道端でお金が欲しいと言うのですが、その場合あなたはどうしますかとみんなで考えるという内容のもので、フォトランゲージですね、一枚の写真から考えようという授業をしていただきました。それぞれ色々な形態をやっていただいたので、すごく参加者の方には好評でした。それから、先ほどの OV による講座だったんですけども、ワールドフェスティバルというのは、もともとあった国際教育研究会の方たちが主導で行っていただいたもので何年も続いております。市内の子供たちが申し込んで自由参加するというもので、主に大学の方とかで留学に来ておられる外国の方が講師になって文化の紹介をしていただく、コーナーがたくさんあって子供たちが回っていくというもので

す。それから、二月の末なんですけども、研究授業を予定しております。これは今日授業していただく方がこの会場にも来ておられるんですけども、いろいろ勉強していただいて、またこの方は今年4月より現職参加で海外派遣されるということで、すごく楽しみにしています。もしよかったら2月25日に鳳徳小学校でありますので見に来てください。

それから、帰国報告会、これはJICA大阪の方が主催で毎年夏休みにしておられる、教諭をされている方が二週間ほどマレーシアに行って、現地の様子を見て見識を広めて帰ってくるという研修制度があるんですけども、帰ってこられた方に帰国報告会をしていただくということをJICAと協力でさせていただきました。帰国報告会は総合支援学校の先生にさせていただきました。それから、これもJICAとの協力というかJICAが主催のエッセイコンテストの審査協力をしました、研究会というか、普通はOB会の方がされるそうなんですけども、京都市の方では研究会の方でさせていただきました。それから出前講座というものもありまして、京都市の方で、まだ今年度始まったばかりなんですけれども、土曜日に小中学校で講座を行えるということで、補習を行って教えておられたりとか、地域の方が昔の遊びを教えておられたりとか、外に出て行って子供たちが体験学習を行ったりとか、色々なことができる枠として土曜講座があてられるんですけど、その中でいつでも出前講座の授業をしますよという確認をとれたOVの方をリストアップして各学校に配って講師登録をしています。

そんな感じで一年過ごして来たんですけども、一年やってきて成果と課題ということで、やっぱり成果としては一人で自分のクラスの中でやっていた分をいろんな人と協力できて、自分だけじゃ思いつかなかったことを教えていただいたり、自分のもっているものを共有できたり、というつながりがあります。特に先ほどの研修会では講師をしてくれた方が小学校教員、中学校教員、高校教員、総合支援学校の教員ということで多岐にわたっていたり、JICAと協力させていただいたり、縦のつながりというか、いろんな方と協力させていただいて本当に、人の輪が広がってきたというのが一番だと思います。それから、何かをしようと思ったときはやっぱり、学校名簿というか、全市の学校にばっと連絡がいくシステムがありますので、研究会として立ち上げたときにそれが利用できて、全市レベルで連絡がいったり、研修センターがただで使用できたりという実質的な面ですけども、これも大きかったです。それから、みんなが寄り合って教材開発をすることでそれを各学校に持ち帰って、自分一人では思いつかなかった授業ができたということがありました。

それから課題の方ですけども、色々ありますけどもやはり、忙しい先生がたくさんおられますので、なかなか交流したいと思ったときに出られる状況になかったり、興味のある講座に出席したくても、6時7時に出てくるということが厳しいということがあったりして、交流がもっともっとスムーズに行けばいいなと思うことがあります。それから、題名に挙げていましたが、やはり一番元にあるのは個人個人の力だと思います。一人一人の企画力とか、自主性とか、いつでも、どこでも、誰とでもとよく先輩方がおっしゃるんですけども、そういう協力性みたいなものを一人一人が持つこと。それから日本に帰ってきてから

不適応というか、外国はこうじゃなかった、日本はこうだ、のような不適応を起こす人が時々いますけども、日本の子どもたちは目が輝いていないとか、そういうことではなくて、やっぱり世界を知るということは逆に日本を知るといことですし、日本という国を外から見れたということを活かして、目の前の子どもたちに活かしていける仕事だと思いますので、他職の方と比べてはいけないのですが、先生はいいなと言ってもらえることもあって、何か返したいと思ったときに目の前に対象がいて、子どもがいて、子どもというものは日本の未来や将来ですし、そういう立場にいるということはすごくありがたいと思います。日本に帰ってきたときに先生辞めようかなと思ったことがちょっとあって、海外に行きたいな、海外で働きたいなという思いが膨らんでいたんですけども、自身の事情もありますし、税金で行かせていただいたという思いもすごくありましたので、三年間は絶対勤めようと思って、辞めないでよかったなと、続けててよかったなと今すごく思います。なので、是非今から行かれる先生方や帰って来られた先生方も、きっと親とかお子さんとかから、この先生がいてよかったなと思っていただけるような先生方がたくさんいらっしゃると思いますので、続けていただいて子どもたちに還元していただきたいと思います。これで以上です。ありがとうございます。